



藤嶋理事長、川崎市名誉市民に !!

藤嶋昭理事長が川崎市名誉市民に選ばれました。名誉市民は、市に関係の深い方で、文化の進展に貢献された方が選ばれます。理事長は光触媒の発見により様々な賞を受賞されていることに加え、我が国文化人としての最高の文化勲章の受章、長年の川崎市の科学技術の普及・啓発に寄与されたこと、また、市の教育行政に多大な貢献のあったことが選定理由として挙げられています。

名誉市民の称号はこれまで4名の方が選ばれており、藤嶋理事長は岡本太郎氏以来25年ぶり5人目となります。



2018年度 第27回開講式 開催

4月4日、開講式が行われました。第1部開講式では、今年がアカデミー創設25周年の節目にあたることから、4人の方からアカデミーの歩みにふれた挨拶や祝辞をいただきました。

太田学長から、「アカデミーは、創設以来高い理想を掲げ、優秀な先生方と熱心な受講生によって、伝統が作られてきました。これからも優秀な先生をお招きすることに力を入れたい」。藤嶋理事長は、「生涯学習は息の長い活動です。『米を育てるには1年、木を育てるには10年、人を育てるには100年かかる』と言われる。私たちも気概と意欲を持って、学んで行きたいと思います」。山田川崎市生涯学習財団理事長は、川柳を引用され、「かわさき市民アカデミーは、市民のための市民による日本一の市民大学です。『生涯の学びのメッカアカデミー／この街で学ぶ姿に笑顔あり』」。伊藤川崎市副市長は「受講生の皆さんにアカデミーで学んだことを地域に還元することにも力を入れていただけると嬉しいです」とお話しされました。



太田猛彦学長

第2部記念講演 「日本人はなぜ『さようなら』と別れるのか」

鎌倉女子大学教授 竹内整一

記念講演として、アカデミーの副学長であり人間学のコーディネーターの竹内先生にお話をいただきました。先生は倫理学・日本思想がご専門で数多くのご著書を出されています。また、三年前まで日本倫理学会の会長も務められました。

講演は、阿久悠の残した「人間はたぶん、さよなら史がどれくらい厚いかによって、いい人生かどうかが決まる」を皮切りに、先生ご自身の、お父様に「さようなら」を告げられなかったエピソードや、ごく最近亡くなれたご友人にははっきりと告げられたエピソードなどを交え、「さようなら=さようであるならば」が、これまでを確認・総括をすると共に未来に向けて「おのず」から発動される働きを持つ、世界でも稀な別れ言葉であることをお話されました。

これまでの確認・総括がこれからは繋がるというこの言葉は、今のスタートの季節に相應しいテーマで、改めてやまと言葉のすばらしさを認識しました。

人間学講座・WS 世話人 木下すいれん



竹内整一先生

2017年度後期代表世話人会議

2017年度後期運営代表世話人会議が、1月16日に開催されました。

第Ⅰ部はNPOからの報告であり、講座・WSで使用する機器類の整備と使い方の研修、抽選制度の見直し、資料代の徴収方法、新聞折り込みの改善、行政・企業との連携に関する説明がありました。

第三次中期経営計画案については、「これまでの質の高いカリキュラムを堅持しつつ、より広範な年代の市民層へアプローチし、市民のニーズを的確に把握した施策を展開する」との基本方針、また重点施策や運営上の見直しについて説明がありました。

第Ⅱ部では、グループに分かれ次のような話し合いが行われました。

① 講座・WSの担当理事・コーディネーターとの連携強化等、②第3次中期経営計画に関しては、提案された計画の具体性、③抽選制度の変更は、新規受講生枠を設けること、会員の「選択した学群内で優先される」こと等、④世話人制度については、代表世話人、世話人の後継者を確保する各講座での課題、工夫の紹介等。



新出版『楽しい 学びの 園で』の出版披露記者会見 開催！



一般販売価格
税込 1,296 円

事務局にて
特別価格税込
800 円で販売中

3月27日、川崎市役所内記者クラブで新聞社6社出席のもと会見が行われ、藤嶋理事長が書籍誕生の経緯についてお話しされました。質疑応答を含めた会見はアカデミー全体の話に及び、更なる知名度向上に繋がる良い機会となりました。

本書籍は今年開学25周年を迎え、受講生、太田学長・講師の先生、藤嶋理事長の計52名の執筆により「学びの中での思い、気づき」「学びの中での出会いと別れ」「学びを広めたい」の3章で構成されています。

この書籍は一般書店でも販売し全国展開の予定です。皆さまも是非、手に取って読んでいただきたくお願い申し上げます。「楽しい 学びの 園で」出版事業担当



書籍を手に会見

2 月度理事会報告 2月27日（火） 15：30～

報告事項 20件 審議事項 4件

1. 主たる審議事項

- ・第3次中期経営計画案について
- ・17年度活動報告と18年度活動方針について

2. 主たる報告事項

- ・17年度収支見込について
- ・各部会の活動報告について
- ・首都圏関西圏シニアアカレッジ交流会について
- ・新しい出版について

3. その他

年度末が近づいていることから、決算見込みと各部会の活動の振り返り、新年度に向けた準備を確認する場になりました。また、関西圏との交流や新しい出版事業による出版物の発行のこと等、新たな事業領域に関する報告もありました。



第10回 受講生のつどい 開催報告

3月2日（金）、2017年度修了式を兼ねた受講生のつどいが開催され、128名の方々に参加いただきました。今年度は154名の受講生が修了され（30単位を取得）、当日60名が出席されました。修了生を代表して町田真弓さん（環境とみどり・環境とみどりWS・音楽Ⅲ）が修了証書を太田学長より授与され、アカデミー継続受講への熱い想いを話されました。

第2部ではルセル弦楽四重奏団の素晴らしい演奏を楽しみ、アンコールには「上を向いて歩こう」を披露していただきました。「先生の時間・くつろぎタイム」では先生方のユーモアあふれるお話をお聞きし、恒例の「ウルトラクイズ」も大いに盛り上がりしました。

受講生のつどい実行委員会



ウルトラクイズ Part5



先生の時間・くつろぎタイム（懇親の時間）

認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー

“総会” 開催のお知らせと “NPO 正会員” 募集のご案内



開催日時： 5月25日（金）

15:30～17:30 生涯学習プラザ301



NPO の活動の充実と発展は、多くの皆さまのご協力とご理解が必要です。
是非、NPO 正会員にご加入いただきご支援、ご協力をお願い申し上げます。

只今会員を募集いたしております。入会を希望される方は、NPO 事務局までご連絡下さい。
問い合わせと NPO 正会員お申し込み先 電話 044-733-5590

かわさき市民アカデミーの変遷—シリーズその4—

アカデミー沿革史（抜粋）

2004年

4月：アカデミー講座・演習が3分の1になり、受講生も500人減少

5月：かわさき市民アカデミー改革協議会発足

2005年

4月：ワークショップ委員会結成（自主運営開始）

11月：アカデミー市民運営準備会結成

2006年

4月：講座の自主運営移行開始

11月：特定非営利活動法人かわさき市民アカデミー（NPO）設立総会

2007年

4月：特定非営利活動法人かわさき市民アカデミー発足（活動開始）

＜アカデミーの危機と改革の時期を振り返って＞

アカデミー市民運営準備会メンバーとして、市民の手による自主運営の仕組みをつくり、引き続き NPO の理事を務められた折居晃一さんに、存続の危機を乗り越えた当時のお話を伺いました。

「アカデミーを存続させるために、私たち市民が主体となって運営するアカデミーに変えることが求められました。それまで行政が行っていたカリキュラムづくり・講師探し・運営資金（受講料）集めを、自分たちで行わなければならなくなりました。

私たちにとっては初めての経験でしたが、それまで演習の運営に関わっていた人たちもいたので、その人たちを中心に、ワークショップと名を変えた演習から自主運営を始めました。最初は川崎市から自立を支援するという名目で、1ワークショップ当り 75,000 円の財政援助があったので、何とか市民による自主運営が実現し、翌年には政治・国際・経済・人間学の講座も、自主運営に向かうようになります。

このように、講座・ワークショップでは自主運営が始まり

ましたが、最終的にはアカデミー事業全体を市民の手で運営することが求められていましたので、引き続きそのための組織作りが話し合われました（「アカデミー市民運営準備会」）。そこには、これまでアカデミーに関わった様々な立場の人たちが参加していました。時には、意見の違いから激論に及ぶこともありましたが、アカデミーを存続させたいという思いは共通でしたから、自主運営を目指す話し合いが途切れることは無かったです。

アカデミーの運営を担う組織（NPO）として認証を受けるために、定款をつくり、手続きに必要な書類をそろえ、予算を組み、事務局体制を整えるなど、やらなければならない作業は山積していました。それらをやり終え、何とか設立にこぎつけたのは準備会が出来てから1年後、2006年11月のことでした。県から認証を受け、NPOとしての活動が始まったのは翌年4月です。

こうして市民の手によるアカデミーの自主運営は実現しましたが、今のようにカリキュラムの企画編成組織がしっかり整うまでの間は、カリキュラムづくりには苦勞しました。講師が見つからない時には、NPO 理事や講座運営世話人が率先して講師探しをしました。理事である私は、NPO の運営・コーディネーター・代表世話人と一人三役をしなければなりませんでした。しばらくはシステムの不備を人の力で補う時期が続いたのです」。

編集後記

アカデミーは、今年創設25周年の節目を迎えます。

「かわら版」では、アカデミー創設から現在に至るまでの変遷を辿る記事を連載していますが、その取材を通じて、アカデミーが今まで存続し発展して来られたのは、多くの方々の努力の賜物だったことに、改めて気づかされました。

そうした諸先輩方の努力の跡を振り返り、その経験をアカデミーのさらなる充実・発展のために活かしていくことが、今アカデミーで学ぶ私たちの務めだと、決意も新たにしています。

編集委員

認定 NPO 法人

かわさき市民アカデミー

発行人 広報部会

編集人 かわら版編集委員会

川崎市中原区今井南町 28-41

川崎市生涯学習プラザ 3F

電話：044-733-5590

FAX：044-722-5761

問合せメールアドレス：

info@npoacademy.jp

ホームページ：

http://npoacademy.jp/